
† BLEACH † ~ ZERO Sixman ~

朱雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BLEACH 小説 ZERO Sixman

【コード】

N7094T

【作者名】

朱雀

【あらすじ】

BLEACH

BLEACH 小説 ZERO Sixman

プロローグ

約1000前：

山本元柳斎重國が
一番隊長 つまり
総隊長になった頃に

幻の護廷隊が
存在した

零番隊<ゼロばんたい>

隊員はわずか6人

故に 6人組<シックスマン>
と謳われた

だが
それは元柳齋が
総隊長になると同時に

その姿を眩ませた

伝説の6人

隊長

吹雪 氷架
フブキ ヒョウカ

副隊長

獅子垣 竜翠
シシガキ リュウスイ

三席

一咲 散羽
ヒトサキ チルウ

四席

高岡 勝鬼
タカオカ ショウキ

五席

美音色 奏
ミネイロ カナエ

六席

火屋 刃 我
カヤ ジンガ

その6人が

藍染たち護廷十三隊の
裏切りによって

今再び

動き出す

†オリキャラプロフィール†

名前

吹雪氷架

フブキヒヨウカ

性別

女

所属

零番隊 隊長

容姿

銀髪 ロングストレート

翡翠色の目

性格

優美 優雅

たまにやんちゃ

解号 / 斬魄刀

吹け / 雪結晶華

名前

獅子垣竜翠

シシガキリュウスイ

性別
男

所属
零番隊 副隊長

容姿
翠髪 ツンツンヘア
黒目
身長199センチ

性格
基本隊長に忠実な
大人しいヤツ

解号/斬魄刀
潤え/頭獅体竜水蛇

名前
一咲散羽
ヒトサキチルウ

性別
女

所属
零番隊 三席

容姿

青み掛かった黒髪
ポニーテール
茶色目

性格

明るい落ち着いたコ
ドジで天然

解号 / 斬魄刀

咲散れ / 花燐晶墮

名前

高岡勝鬼

タカオカシヨウキ

性別

男

所属

零番隊 四席

容姿

黒髪で後ろにまとめてある赤目

性格

口が悪く短気
不良

解号 / 斬魄刀

暴れる / 邪鬼丸

美音色奏

ミネイロカナエ

名前

性別

女

所属

零番隊 五席

容姿

金髪のサイドテール

青目

性格

元気でパワフル

エンターテイナー

解号/斬魄刀

奏でろ/音色月

名前

火屋刃我

カヤジンガ

性別

男

所属

零番隊 六席

容姿

赤髪 メガネ

黄色目

性格

穏やかで精神力が強い

真面目

解号 / 斬魄刀

燃えたぎれ / 火炎昇山

十 退隊の日十

静霊廷の奥深い地下

そこには

どの隊舎よりも

大きく広い隊舎があった

零 と書かれたその隊舎は
幻の護廷隊
零番隊の隊舎だ

カツ…カツ…カツ…

炎の灯の廊下を
あるく翠髪の子

約二メートルある
長身男子だが

どこか落ち着いた雰囲気があるこの男は

獅子垣竜翠

零番隊副隊長だ

こんこん

「失礼します」

男らしいが凜とした
声を響かせ
巨大な扉を開ける

「おかえり竜翠
指示はあった？」

竜翠に問い掛ける女

その人物は
今や 死神最強の実力を
持つ 零番隊隊長

吹雪氷架だ

「はい。やはり
退隊との指示が出ました」

退隊とは
その隊の解散を意味する

「ええ?!
やっぱり退隊なの!?!」

この元気な声の少女は
五席の
美音色奏だ

「そんなあ」

赤髪が特徴の少年
六席の 火屋刃我 は
眉を八の字に伏せて
悲しい顔をする

「…けつ」

苛立っているいかにも
不良のような顔付きの男
四席の 高岡勝鬼
彼にも零番隊には
思い出がある

「……………」

泣きそうな顔で
黙り込んでいる三席
一咲散羽

だが

一番長く

そして一番零番隊に

思い出のある隊長の

氷架は微笑み

さも楽しそうな

眼差しで隊員を見詰める

「そう悲しい顔をするな
1000年の長い休暇だと思えまた零番隊は復活する
必ずだ！」

隊員たちは

1000年という単語に

疑問を抱いたが

さほど気にせず

氷架に微笑んだ

翌日

零番隊は退隊した

† 出会い † 氷架 Side

もう 何百年経つだろうか

我が零番隊は

もうすぐ 復活する

だが まだ誰にも
会ってはいない

竜翠…

散羽…

勝鬼…

奏…

刃我…

彼らは
無事だろうか…

元気だろうか…

ザアア—

「ふっ

私が不安になってどうするバカだな…」

少し強めの風にあたり
自分に呆れる

今いる丘は
花が 咲き 大樹がある

そこは私のお気に入りだ

ズウウンッ

「…こんな快晴な日に
虚と戦うなんてな…」

少し離れた場所で
虚が誰かを襲っていた

瞬歩でそこに向かい
襲われていた誰か

否 子供を抱いて
丘に戻る

「大丈夫？」

私は子供に声をかけた

子供が上を向き

私と目が合う

「……………」

似ていた…

私に…そっくりなのだ

銀髪

目の色

子供もそれに気づいたのか

顔を赤くして

驚いている

「……………ありがとう……………」

ちいさな声で

呟く私に似た子供

霊圧も高い

興味がある

「名前は

なんていうんだい？」

「日番谷冬獅郎……」

カツコイイ名前だな……

「そうか……」

私は吹雪氷架だ」

頭を撫でてやる

恥ずかしいのか

視線を横にずらし

顔を火照らせている

かわいい……

「……気が向いたら

ここにおいで

私はいつもここにいる」

日番谷は頷いた

虚がまた襲い兼ねないから家まで送った

「じゃあな 日番谷
待ってるよ」

一言そういい
瞬歩で戻る

明日

来てくれるだろうか

十一目惚れ十日番谷Side

虚に襲われ
森を駆け抜ける

突然 身体が浮いたような
感覚が襲った

気がつくと桜の木の下で
あの人と俺を抱いていた

綺麗で…

優美で…

愛おしくて…

一目であの人の
虜になった

俺と同じ容姿なのに

ここまで雰囲気が違う

「大丈夫？」

声は凜としていて

高めの綺麗な声だ

「……………ありがとう……………」

あの人に見入って

反応が遅れる

あの方は吹雪氷架という
名前だった

また この桜の木に
来てもいいと言ってくれた

また明日も来よう

そう決意した

そして誓った

強くなって

絶対にあの人を護ると

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7094t/>

†BLEACH† ~ZERO Sixman~

2011年10月8日19時58分発行